

O-4

日本の一般地域住民における セルフメディケーションに関する実態調査

A survey of self-medication practices in a Japanese general population

○佐藤 倫広¹⁾, 松本 章裕²⁾, 原 梓³⁾, 岩森 紗希²⁾, 菊谷 昌浩⁴⁾,
小原 拓^{1,4)}, 目時 弘仁⁴⁾, 小野木 弘志⁵⁾, 高橋 信行²⁾, 佐藤 博²⁾,
眞野 成康¹⁾, 今井 潤⁶⁾, 大久保 孝義⁷⁾

1) 東北大学病院薬剤部, 2) 東北大学大学院薬学研究科臨床薬学分野, 3) ルーヴェン大学
4) 東北メディカル・メガバンク機構予防医学・疫学部門, 5) 東北福祉大学健康科学部保健看護学科
6) 東北大学大学院薬学研究科医薬開発構想寄附講座, 7) 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座

To investigate the self-medication practices in Japan, a questionnaire survey regarding the usage experience of over-the-counter medications (OTC) or dietary-supplements was conducted among 1075 participants (mean age, 63.9±13.3 years; men, 36.7%) from Ohasama, a rural Japanese community. There were 539 (50.1%) have used OTC/ dietary-supplements. Among the 539, the OTC used most frequently was cold medicine, followed by eye drops. The dietary-supplements used most was health-food including chlorella tablets, followed by energy drinks. These results suggested that the adoption rate of self-medication practice in rural area may be lower than urban area in Japan.

【目的】

セルフメディケーションの普及が期待されている一方、近年の一般地域住民におけるセルフメディケーションの実態は不明である。本研究の目的は、セルフメディケーションに関する調査として、一般地域住民における一般用医薬品（OTC）と健康食品を含むサプリメントの使用状況を明らかにすることである。

【方法】

本研究は、岩手県花巻市大迫町在住の一般地域住民を対象とした大迫コホートの一環である。大迫コホートでは、住民に家庭血圧計を配布し、4週間の血圧自己測定を依頼している。本調査は、血圧計と共に自記式質問票を配布・回収する形式で行われた。OTC・サプリメントに関する質問のほか、農村部である大迫町にて普及している置き薬に関する調査も行った。

【結果】

質問票は1213名に配布され、有効な回答が1075名より得られた（平均年齢64歳、女性63%、回答率89%）。OTC・サプリメントの使用経験がある者は539名（50%）であった。使用経験者539名において、具体的な種類として、OTCでは風邪薬（61%）、次いで目薬（30%）、サプリメントではクロレラ等の健康食品（44%）、および栄養ドリンク（41%）がそれぞれ挙げられた。性別、年齢、喫煙、飲酒、糖尿病・脂質異常症・高血圧の既往歴、置き薬の有無、および4週間中の家庭血圧測定回数をモデルに投入したステップワイズ多重ロジスティック回帰分析を行ったところ、OTC・サプリメントの使用経験有りの要因として、女性、若年、家庭血圧測定回数の高値、脂質異常症有り、および糖尿病有りが選択された（all $P < 0.05$ ）。

【結論】

本調査の結果、本邦の一農村地域におけるOTC・健康食品の使用実態および要因が明らかとなった。都市部では約7割がサプリメントの使用経験があると報告されており、それに比べ農村地域においてセルフメディケーションの普及は低率であると考えられる。